

結城七社(ユウキシチシャ)

鎌倉幕府が滅亡して室町幕府の体制が確立するまでの約60年間を南北朝時代という。この時代の結城氏は、6代朝祐、7代直朝、8代直光の代にあたる。

6代朝祐は、建武3年(1336年)4月足利尊氏(北朝方)に従って、多々良浜(福岡県)の合戦で戦死した。このため12歳の嫡子直朝が7代となった。この年の12月に陸奥から京都を目指す北畠顕家(アキイエ)と白河の結城親朝(チカトモ)(南朝方)らが「絹河並木渡」で渡河侵入しようとする北畠軍に対して、結城軍は激しく抵抗して対岸に追い払った。

歴応元年(1338年)、北畠顕家の父、北畠親房(南朝方)は顕家戦死のため、陸奥で南朝方の挽回を図ろうと伊勢から船出したが暴風に遭い、常陸国に漂着し小田城(南朝方)に入った。歴応4年(1331年)10月小田城主の小田治久が高師冬(北朝方)にくだったため、関城(南朝方)に移った。

康永2年(1343年)11月、北畠親房(南朝方)が籠る関城に高師冬(北朝方)が総攻撃をかけ、関城(南朝方)を大宝城(南朝方)と同時に陥落させた。北畠親房(南朝方)は吉野(和歌山)に戻った。

北朝方として戦った結城直朝は、激戦の中で重傷を負い、のち死去した。享年19。生前、直朝はかねてから対立していた関城の城主・関宗祐を討たせてほしいと、七曜星(北斗七星)に祈願し、七に因む領内の由緒ある神社・七社を選定した。(康永2年(1343年)5月10日)

結城七社というのは、牛頭天王(ゴズテンノウ)(結城浦町)、住吉大明神(結城西宮)、大桑大明神(下総国結城郡小森村)、高椅大明神(タカハシダイミョウジン)(下総国結城郡高椅村)、八幡宮(下総国結城郡上梁村)、大神宮(下総国結城郡中河原村)、鷲宮大明神(下総国結城郡萱場村)である。

元禄年中(1688~1704年)下総国結城郡から下野国都賀郡となったことに伴い近世七社として、八幡宮、大神宮に代わり、健田神社、神明神社が入った。

正月元旦には、恵方参りとして、その年の吉方に当たる神社に初詣をすることが盛んに行われた。

一の宮 牛頭天王(ゴズテンノウ)(健田須賀神社) 結城市結城(浦町)195 健田須賀神社内



健田須賀神社

祭神：須佐之男命(スサノオノミコト)

牛頭天王は、インド祇園精舎の守護神で、疫病を払う神として京都祇園社に祀られた。それが小山氏に、そして結城氏によって仁治3年(1242年)に尾張国(愛知県)の津島神社の分霊を受けて勧請され現在の地に社を建立して、結城氏の信仰を受けた。

牛頭天王は、須賀神社ともいい、明治3年(1870年)に式内社健田神社に合併され、健田須賀神社になった。

二の宮 住吉大明神(住吉神社) 結城市結城(西ノ宮)1411



住吉神社

祭神：底筒男命(ソコツツオノミコト)

中筒男命(ナカツツオノミコト)

表筒男命(ウワツツオノミコト)

この三神は記紀神代巻によると伊弉諾命(イザナギノミコト)が筑紫の日向の橘の小戸の櫛原(アワギハラ)で厄除けをされたときに生まれた神とされ、住吉神社は人功皇后三韓平定の際に真意を輝かし、凱旋の後大阪市住吉区に創建された。此の縁起により当神社も創建されたものと思われる。

中世武士団は武運長久、一門繁栄、城下万民豊楽を祈願するために氏神を祭祀し手厚く守護した。結城家においても結城家領内の既存の神社、もしくは新たに神社を建立し特に遇した。創建は建武(14世紀)の頃とされるが詳らかではない。文政年5(1822年)3月社殿火災により焼失し、結城藩主水野家の命をもって天保元年(1830年)に再建竣工した。江戸時代後期の神社建築の様式を伝えるのが現在の拝殿である。

本殿内には、合祀された酒造りの神である松尾神社がある。

三の宮 大桑大明神(大桑神社)

結城市小森1



大桑神社

祭神：稚産霊命(ワカムスビノミコト)

大桑神社の成立については、古代、東国に養蚕・織物を伝えたとされる阿波斎部(アワノインベ)が、養蚕・農業の神、稚産霊尊(ワカムスビノミコト)を祭神として、和銅年間(708年～715年)北方の大水河原に創建、この辺り一帯を大桑郷(オオクワノサト)と

名付けたことに始まり、その後、洪水により流失、文明11年(1479年)今の地に移ったと伝わる。現在の本殿は享保7年(1722年)に建てられ、結城市指定有形文化財に指定されている。

小森という地名は、阿波斎部の伝えた蚕種を守り、養蚕・織物が盛んであったことからいつとはなしに、この辺りは「蚕守(コモリ)」と称され、中世結城氏の時代には、合戦に備えてこの地に兵を籠らせたことから、「籠(コモリ)」と称されたことに由来すると伝わる。

境内の大櫨は推定樹齢350年以上、目通幹周1.7m、根回り幹周8mの巨木で結城市指定天然記念物に指定されている。

四の宮 高椅大明神(高椅神社)

小山市高椅702



高椅神社

祭神：磐鹿六雁命(イワガムツカリノミコト)

国常立尊(クニトコタチノミコト)

創建は景行天皇41年(111年)、日本武尊東征の折に、白旗丘に御旗を立て、国常立尊、天鏡尊(アメカガミノミコト)、天萬尊(アメヨロズノミコト)を祀ったという。

天武天皇12年(683年)に磐鹿六雁命を合祀した。磐鹿六雁命の子孫といわれ、大膳職についていた高橋氏が料理を司る任務が与えられた磐鹿六雁命を安房国高家神社(タカベジンジャ)の祭神として祀ったとされ、当高椅神社も、古くは高橋明神といわれた。

現在では、日本料理の神様とされる磐鹿六雁命を祀った神社は、当高椅神社の外、高家神社(千葉県南房総市)、高橋神社(奈良県奈良市)がある。

境内の楼門は、天文24年(1555年)16代結城政勝が改修しましたが、現在の楼門は、結城水野氏の勝前(カツチカ)・勝起(カツオキ)により寄進され、明和7年(1770年)竣工したもので、栃木県指定文化財である。

通称、鯉の明神さまと呼ばれる神社。神社南に鯉の明神池がある。池の由来は、長元2年(1029年)に境内の井戸を掘ったとき、大きな鯉が出たので、霊魚として宮中に献上したところ、天皇から「日本一社禁鯉宮」との勅額を賜ったので、現在でも地域住民は、鯉を食べないことや、五月節句の鯉のぼりもあげない風習が続いている。

五の宮 八幡宮(八幡神社)

小山市梁1277



八幡神社

祭神：菅田別命(ホンダワケノミコト)

社殿によると、源頼義が奥州の安倍氏追討の途中(永承7年(1052年)か)当地で戦勝を祈願して、後の康平6年(1063年)凱旋(前九年の役)するに当たって神恩に感謝し社殿を建立したとある。

文治5年(1189年)結城朝光は源頼朝の軍に従って奥州征伐に参加、武功を立てて帰国すると、先例にならって居館(イカタ)の北東(艮(ウシトラ))といって鬼が出入りする方角といって嫌われた鬼門)に位置する当社に特別の崇敬を寄せた。それ以降結城氏代々の守護神として保護された。

境内の大欅は、樹齢900年ともいわれ、樹高28m、目通り幹周6.5mといわれている。

六の宮 大神宮(神明宮)

小山市中河原202



神明宮

祭神：天照皇大神(アマテラススメオオミカミ) 十二天

結城御代記によれば康永2年(1343年)結城直朝が結城七社の一つとして建立したとある。

社名の大神宮は伊勢神宮の別名で、神明宮は伊勢信仰によって伊勢神宮の分社が諸国に勧請されて、神明社、神明宮と名付けられたもの。

元禄11年(1698年)9月、氏子鈴木某の他数名が、伊勢皇大神宮から霊璽(レイジ・祖先の霊の代わりとして祀るもの)を勧請した。

享保5年(1720年)11月、十二天宮に正一位の神階が授けられた。

明治まで釈迦堂(現在、結城市永横町)が管理していた。

明治37年(1904年)、本社、拝殿が完成した。

昭和58年(1983年)、氏子中で大修復を行い現在に至る。

神明宮のある中河原地区には「中河原の周り地蔵」という地蔵尊を地区内で廻す信仰(現在でも約80戸の氏子の家を毎日順に1泊しつつ廻っている)があり、小山市指定文化財(無形民俗文化財)になっている。

今でも結城と同じ風習が残り毎年秋祭の「たけだまち」(結城でも近年まで「たけだ(健田)まち」が行われていた)が行われている。

七の宮 鷲宮大明神(日鷲神社)

小山市萱橋428



日鷲神社

祭神：天日鷲命(アメノヒワシノミコト)

武蔵国太田荘(埼玉県北葛飾郡鷲宮町)鷲宮神社の祭神を小山庄(小山市鷲宮)に勧請されたものを、さらに結城氏の領地に勧請したものと考えられる。

神社の東側から北側にかけて土塁と堀状の遺構が残っているが、

かつてはまっすぐ東へ延び元結城ガーデンに残る土塁につながっていて、中世には、北方からの敵の侵入を防ぐ防衛ラインを形成していた可能性がある。また、結城ガーデンの前の道の左右で南北にずれていて北から見ても南から見ても左側の土塁が手前に見えることから、この付近は「左前」と呼ばれていた。

健田（タケダ）神社跡地



健田神社跡地

結城市結城（健田）

祭神：武渟川別命(タケヌナカワワケノミコト)

健田神社は、結城字健田という地名の場所に跡地があり、その歴史は大変古く、延長5年(927年)にまとめられた「延喜式(エンギンキ)」に記載されている。「延喜式の内に記載された神社」の意味で延喜式内健田神社」といわれる。日本書紀によれば、東国地方を平定したとされる竹田の臣の祖、武渟川別命(タケヌナカワワケノミコト)を祭神としていた。

古代より山岳信仰の対象とされてきた筑波山を背景に、祭事等が行われてきた場所と考えられている。

健田神社跡地から南東に見える筑波山は、女体山と男体山の双峰からなり、その容姿が美しいことで結城筑波と言われている。筑波山は、富士山と対比して「西の富士、東の筑波」と称されています。万葉集で富士山がうたわれたものが九首なのに対して筑波山は二十五首と圧倒的に多く、万葉の時代から筑波山がいかに親しまれてきたかがわかる。

健田神社跡

結城市結城(鉄砲宿)3010付近



道了大薩埵(健田神社跡)

健田神社(健田神社跡地で記述済)は、結城字健田という地名の場所で東国地方を平定されたとされる武田臣の祖、武渟川別命(タケヌナカワワケノミコト)を祀っていた。

宝暦14年(1764年)に鉄砲宿（現在の乗国寺の西にある道了大薩埵(ドウリョウダイサッタ)に移り、乗国寺が別当として管轄した。

合祀により一の宮と同一 健田神社(健田須賀神社)

結城市結城(浦町)195



健田須賀神社

祭神：武渟川別命(タケヌナカワワケノミコト)

須佐之男命(スサノオノミコト)

健田神社は、明治3年(1870年)の神仏分離によって現在地にあった須賀神社と合祀され健田須賀神社となった。

須賀神社は牛頭天王(1. 牛頭天王で記述済)ともいい疫病を払う神、須佐之男命(スサノオノミコト)祀っている。

健田須賀神社は、現在も市中氏子により結城の氏神、産土神(ウブスナガミ)(その者が生まれた土地の守護神)として信仰されている。元旦の初詣、節分祭、夏祭りの大神輿渡御、輪くぐりなど市中挙げての祭礼が行われている。

近世六の宮 神明神社

結城市結城(神明町)1858



神明神社

祭神：豊受皇大神(トヨウケスメオオミカミ)

安永4年(1775年)に結城水野氏10代勝起の創建で、豊受皇大神(伊弉諾尊の孫)が祀られ、近世結城七社の一つになっている。

通常、神明神社は、天照大神を主祭神とし、伊勢神宮内宮を総本山とする神社であり神明社、皇大神社、天祖神社などともいい、通称として「お伊勢さん」と呼ばれることが多い。

当神明神社の祭神豊受皇大神も伊勢神宮の外宮に鎮座し、天照大神(アマテラスオオミカミ)の食事を司る穀物と食物の女神様である。